

令和5年4月1日



着任のご挨拶

佐賀県立武雄高等学校長 下村 昌弘

校門から校舎へと昇る坂道（通称「武高坂」）の両側に林立する桜の木も冬の間、寒々と木肌を風にさらしていましたが、その内側に潜めていた生命力を陽春の日差しの中で一斉に解放させ、例年以上に鮮やかなピンクの花が咲きほこっています。

これまでの3年間、未曾有のパンデミックにより、様々な制限が強いられ、十分な教育活動も展開できませんでした。ようやく、日常が取り戻されつつあります。



春休みの校庭では、今を盛りと咲き誇る桜のように、冬を耐え抜いた若い息吹がほとぼしり始めています。

武雄高等学校のホームページをご覧ください、ありがとうございます。

今年度、新たに本校の学校長として着任いたしました下村昌弘と申します。よろしくお願いいたします。

さて、本校は、明治41年に開校し、爾来幾多の変遷を経ながら、115年の歴史を重ねてきた伝統を誇り、また、中高一貫教育校として今なお発展している進取の精神あふれる学校です。

校是である「質実剛健」「報恩感謝」を受け継ぎ、「高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する」ことを学校教育目標として掲げています。

本校で学ぶ生徒たちは、それぞれが主体的に自分の将来を見据え、高い目標をもって、日々の生活を営んでいます。

今春の大学入試でも、卒業生の皆さんは、東工大1名・京大3名・大阪大1名・九大6名・佐賀大医学部医学科2名を始め、国公立大学129名と、それぞれの生徒が自分らしいキャリアを達成してくれました。

また、勉強だけではなく、部活動にも一生懸命に取り組み、少林寺拳法部や弓道部は全国レベルの実績を残し、他の競技や芸術分野においても、多方面で活躍をしています。

その他、武陵祭（体育祭・文化祭）をはじめとするたくさんの学校行事、「日本の次世代リーダー養成塾」や武雄市との協働による「武雄市まちづくり参画事業」といった校外体験活動への参加など、様々なアクティビティに主体的・能動的に参加しています。

本校では、体験を体験に終わらせない、そこで湧き起こった興味・関心をさらに深掘りすることを大切にしています。学問的な興味・関心はもとより、SDGs や地域おこしなどの現代的な課題、今自分が熱中しているスポーツや文化芸術分野など、自分が一番自分らしいと思える領域について、広く調べ、深く考える、そういう学びを推進しています。

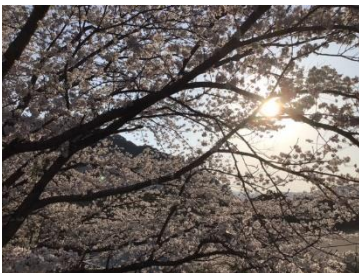
こうした学びをとおして、自分のキャリア形成に役立てる、言わば高いレベルでの「文武両道」を実践しているところです。

また、今年度も引き続き、佐賀県教育委員会指定の SAGA スマート・ラーニング指定事業に取り組みながら、「唯一無二の誇り高き学校づくり」、存在感のある学校づくりに邁進するとともに、「ほめるからはじめる。はじまる」をモットーに、生徒の自己肯定感・自己有用感を育みながら、自主性・主体性を備えた人間的自立にいざなう教育支援に尽力いたします。

いずれにしましても、こうした教育活動をとおして生徒はもとより、保護者、地域、県民の皆様の期待に応え、信頼ある学校づくりに向けて、教職員一丸となって、子弟同行、ともに修行に専心する覚悟です。

引き続き、恵まれた教育環境の中、生徒の皆さんが充実した武高生活を送れますよう、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、実は私自身、平成10年を中心とした前後計7年間、統合前の武雄高等学校に勤務させていただきました。その折も、たくさんの優秀な生徒様と先生方に恵まれ、30代の教員として最も充実した時間を過ごさせてもらいました。



今回も、素晴らしい資質・能力をもった生徒さんたちにしっかりと寄り添いながら、たくさんの情熱あふれる先生方とともに、教員としての総括をしよう、個人的な志ではありますが、そうすることで、伝統ある武雄高校の発展に寄与することができるのではないかと考えているところです。

微力ではございますが全力で頑張ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。